



農業公社「きびの里」の市役所直売所での販売用に、野菜の集荷作業を行う同公社の職員。写真は、河原照夫さん（美袋）宅でダイコンを集荷中。地産地消を通じた地域ブランド推進事業では、同公社が生産者グループと販売先の間に入り、集荷や納入、代金の決済などを担うことになっている。

そうじゃ「地・食べ」委員会生産者部会（部会長・東守）が申請していた総合化事業計画「地産地消を通じた地域ブランド推進事業」が平成23年10月31日、国の六次産業化法に基づく認定を受けました。

6次産業とは、生産、加工、販売を展開する経営形態のことです。同部会は生産者グループで構成される組織。計画では、生産者の顔の見える採れたての農産物を「そうじゃ「地・食べ」ブランド」とし、カット野菜といった加工品も含め、

学校給食をはじめ、市内の飲食店、仕出し店、惣菜メーカーなどへの販路の拡大を目標としています。そのための生産体制と生産物の集荷・出荷体制も構築することとしています。

認定を受けたことで同部会は、国からの補助が受けやすくなるなどの優位性も得ました。

東守部会長は、「小規模農家の生産力を生かし、農地の活用と農業全体の生産意欲向上につなげたい」と話します。

市内では、生活交流グループ協議会（本行光子会長）が6次産業に取り組み、市内産の農産物を加工品にして販売しています。その代表的な商品が、「吉備路総社味と香りの玉手箱」です。

そうじゃ「地・食べ」委員会生産者部会 6次産業化の事業計画が認定に 生産者グループの組織による取り組みでの認定は、中・四国地方では初

障がい者千人雇用



420人

障がいがある人の就労者数

〔平成23年11月1日現在〕

障がい者千人雇用の進捗状況を表す数字の一つである就労者数は平成23年11月1日現在、420人です。

就労者数は、一般就労と福祉的就労のいずれも対象にし、市内の事業所に就労している人と市外の事業所に就労している市民、市の取り組みに基づいて就労し

ている人の合計数。420人の中には、これまでの就労者数も含まれています。

市では平成23年5月、市障がい者千人雇用委員会（江草安彦会長「旭川荘名誉理事長」）を立ち上げ、障がいがある人の就労を進めています。この事業には、多くの人の理解と協力が必要で、こうしたマンパワーは



11月28日、市の定例記者会見の席で、障がい者千人雇用の現状について発表する江草安彦会長。「これまでの就労者数も含め現在、一般就労と福祉的就労を合わせ420人が就労」と発表し、「まちの人のやさしさと、関係者の熱意の結果」と評した。

■就労者数の内訳			
一般就労		福祉的就労	
市内事業所	230人	市内事業所	124人
市外事業所	11人	市外事業所	46人
総社市役所	9人		
小計	250人	小計	170人
合 計		420人	

今後さらにもっと重要になります。皆さん、ご協力をお願いします。

問い合わせ 福祉課障がい福祉係（☎92-8269）

総社流の独自施策の今、ホームページで紹介

<http://www.city.soja.okayama.jp>

総社流の独自施策の進み具合や利用状況などを市ホームページで紹介しています。

掲載しているのは、「雪舟くん」「学校給食への市内産の野菜の納入状況」「家庭ごみの量」「障がいがある人の就労状況」。現在は、そうじゃ吉備路マラソンの申込状況も掲載中です。



就職面接会!

参加無料

障がいがある人を対象とした就職面接や職業訓練情報の提供

障がい者ワークわくそうじゃ

と き 1月26日(木)
13:00～16:00

ところ サンロード吉備路

※参加を希望する人は、ハローワーク総社か福祉課に申し込む。当日参加もできます。

申込先・問い合わせ ハローワーク総社（☎92-6001）・福祉課障がい福祉係（☎92-8269）

市内の企業やA型事業所など10社程度が参加